

(参考資料)養護者支援の内容(例)

1. 京子さんが晴美さんを叩こうとした背景の分析

京子さんの父・清司さんは終戦の年に、母・希美さんは、その3年後に生まれた。戦後復興期、高度経済成長を経て、低成長の時代に結婚、京子さんが生まれた。

「幼児期には専門病院に通っていた。小学校入学に合わせて、家族で別の街に引っ越した。教育委員会からは特別支援学級を進められたが、中学校卒業まで通常学級で過ごした。学校の成績はよくなく、友達も少なく、中学校のころにはいじめも受けた」「京子は中学校を卒業し、専門学校に行くことになったが、専門学校の勉強もついていくことができなかった」「専門学校を卒業した後は、アルバイトをしたが長くは続かず、半年ぐらいで転々とした」という希美さんの語りから、母として京子さんの教育、就労に熱心だったことが伺える。

一方、京子さんは「母(希美さん)は、しつめに厳しく、学校の成績にも寛容ではなかった。父清司は厳しい面もあったが、時々(京子さんを)映画に連れて行ってくれたり、家族旅行に出かけたりと、家族思いの人だった」と母・希美さんを厳しい人と捉えており、父・清司さんには「厳しい面」もありながら、「家族思いの人」と関係性がよかったことが伺える。

「京子が正雄さんと付き合うことには大反対したが、京子が妊娠したことで結婚を許し、結納から披露宴、入籍の届けまで(希美さんが)すべて取り仕切って行った」「結婚後は、(希美さん清司さんと)同居して、京子の苦手な家事や育児を手伝った」という希美さんの語りから、京子さんの生活は希美さんが主導的に関わっていたことが伺え、希美さんも「わたしが手伝わなければ、自分一人では家事も子どもの世話も一人でできない」と認識しており、その存在が不可欠な要素となっていたことが考えられる。

そのような中で、「(晴美さんが生まれたが、)言葉が遅かったため、心配した母(希美さん)が晴美を病院に受診させると、知的な遅れがあると言われた」ことで、希美さんは孫の晴美さんに対しても、京子さん同様、厳しく育てなければと考えたのではないか。京子さんの「(希美さんは、京子さんの)子育ての仕方や家事の仕方など、常に口を挟んできた。正雄さんにも、もっとしっかりしろと何かにつけて文句を言っていた」という語りからもそれが感じられる。

2. 今後の支援内容

岡田京子さん

(1)相談・見守りの支援

- ①障害者相談支援事業による訪問相談
- ②東西市保健センター保健師による訪問相談
- ③京子さんの居宅介護利用に伴う相談支援専門員の訪問相談
- ④東西市親の会会員とのつながりづくり

(2)適応障害の要因となっているストレスを軽減するための支援

- ①京子さんの主治医の意見を踏まえた適応障害に関する対応方針の確認
- ②当面、家事負担軽減のため、居宅介護を利用しホームヘルパーが炊事・洗濯・掃除を援助
- ③当面、居宅介護のホームヘルパーによる、晴美さんの通所の準備、送り出し支援

(3)服薬管理の支援

- ①夫・正雄さんが服薬を確認
- ②保健師が訪問時に服薬状況の確認
- ③状況に応じて、訪問看護の利用による服薬確認・管理

(4)京子さんと母・希美さんとの関係改善支援

- ①京子さんが母・希美さんに依存したい気持ちを満たすことと、落ち着いた関係をつくるため、京子さんが希美さん宅を訪問するのは土日とし、夫・正雄さんが必ず同席し関係調整する

(5)晴美さんのサービス等利用計画・個別支援計画の見直し

- ①居宅介護の利用による生活介護事業所の通所準備、送り出しを計画に追加
- ②生活介護事業所への通所しづりが始まる前後の日中活動を確認し、晴美さんがやりたい日中活動の内容に個別支援計画を見直す